歯ブラシの毛先が当たらないと、プラークを取ることができません。

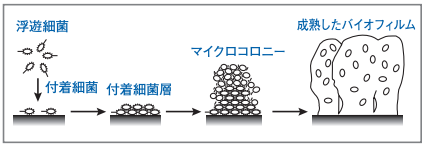
歯周病やむし歯の原因は、プラークと呼ばれる細菌の塊です。このプラークは、近年の研究で細菌が出す分泌物であるフィルムに覆われて歯面に強固に付着するバイオフィルムの一種であることがわかってきました。このバイオフィルムは、歯ブラシの毛先が当たらないと取ることができません。

口腔内写真
（プラーク）

プラークを
拡大すると

電子顕微鏡写真
（バイオフィルム）

■バイオフィルム形成図



デント.マキシマは超薄型ヘッド(2.6㎜)だから、
狭いお口の中のすみずみまで、
キレイにみがくことができます。

歯肉の状態に合わせて選べる
3種類の毛のかたさ。

ライオン歯科材株式会社

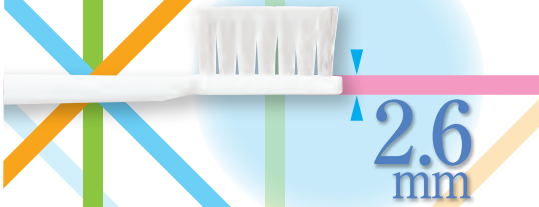
歯科用
DENT.

患者様用リーフレット
歯の定期健診を
受けましょう

最後臼歯部までもっと楽に！もっとキレイに！

DENT. MAXIMA
Toothbrush
デント. マキシマ

超薄型ヘッド(2.6㎜)で
奥歯のすみずみまで
しっかりみがける！



LION

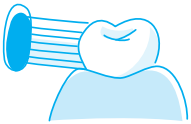
DENT. MAXIMA

奥歯の喪失年令が早いのは、キチンとみがけていないからです。

奥歯周辺は狭くて歯ブラシが当てにくいため、プラークが残りやすく、
歯の寿命も奥歯が短くなっています。

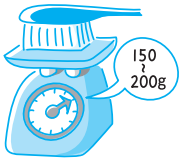
ブラッシングの基本

1 毛先を歯面や歯と歯ぐきの間にきちんと当てる。

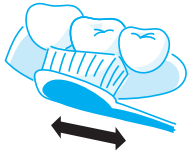


2 毛先が広がらないくらいの軽い力で（150〜200ｇが目安）。

強く押しつけると、毛先が開いて上手にみがけません。



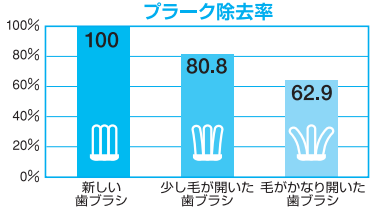
3 小刻みに動かして1〜2本ずつ（5〜10㎜が目安）。



歯科医院で、デンタルフロスや歯間ブラシの使い方、ブラッシング指導を受けて、お口の状態に合ったプラークコントロールを行いましょう。

毛先が開いたら、歯ブラシを交換しましょう。

毛先が開くと、プラークを効率的に取り除けなくなります。



参考資料：武者良憲ら、歯ブラシ植毛部の状態による歯垢除去効果の比較、歯科衛生士　11（11）:24,1987.

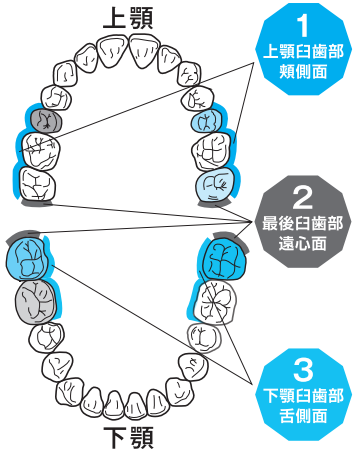
リスク部位

歯の喪失年齢は臼歯部が最も早くなっています。

ワースト	男　性	女　性
NO.1	左下顎第2大臼歯（58.2歳）	右上顎第2小臼歯（58.8歳）
NO.2	右下顎第1大臼歯（58.3歳）	右下顎第2大臼歯（59歳）
NO.3	左上顎第2小臼歯（59.2歳）	右下顎第1大臼歯（59.5歳）
NO.4	右上顎第2小臼歯（59.4歳）	左上顎第2大臼歯（60.4歳）
NO.5	左上顎第2大臼歯（59.9歳）	左上顎第2小臼歯（60.6歳）

資料：平成17年千葉県歯科保健実態調査

頬粘膜や舌の影響でブラッシングしにくい部位



❶上顎臼歯部頬側面

❷最後臼歯部遠心面

❸下顎臼歯部舌側面

写真提供　東京医科歯科大学　歯学部附属病院　歯科衛生保健部　足達淑子 部長